

板野中学校 同和教育だより

MY SKY 第6号

マイ・スカイ

2001年6月21日(隔週火曜日きまぐれ)発行

\\(^-^)/

発行者

編集・文責
岡吉成正士

先日の「児童8人殺 傷事件」^{さっしやう}，何とも痛ましい事件でした。私も一日の大半を学校で過^{いた}している人間ですが，その場であのような事件があったとすれば……と考えても，なかなか想像することすらできません。人を認め，信じることを教えるはずの学校で，人を疑^{うたが}い，自分を守ることを教えなければいけない……。確かに，本来人間には素晴らしい一面と，どうしようもない一面があるのかもしれませんが。そのどちらも学ばなければならないのかもしれませんが，だからといって幼^{おきな}い無防備な子ども^{むぼうび}の命を勝手に奪^{うば}う権利は，誰にもないはずで^す。事件を知ったすぐに，私は「犯人^{はんじん}を死刑^{しけい}に！」と思いました。「それ以外にない！」と思いました。しかし，犯人^{はんこう}が犯行^{げんこう}をしてしまった原因^{げんいん}がどこかにあるのなら，「是非知^{けいてき}りたい！」と思ったし，それがこれからもこの社会で生きていく私たちに対する警笛^{けいしゆく}であるならば，「厳^{げん} 肅^{しゆく}に受けとめ，自ら^{あらた}を改^{あらた}めたい」と思います。みなさんはどう感じましたか？



◆「板野郡同和問題意見発表会・同和かるた取り大会(6月20日：吉野中学校)」◆

先日の校内部落問題意見発表会・同和かるた取り大会^{せんこう}の選考^{けっか}の結果，意見発表では3年生の久米知世^{くめともよ}さんが，かるた取り大会男子の部では3年生の岡達也^{おかたつや}くん，女子の部では同じく3年生の藤井美和^{ふじいみわ}さんが校内選考され，板野郡大会に出場してきました。中でも岡くんは，男子の部で見事に優勝し，板野郡の代表として県大会に出場することに決定しました！また，同時にポスター選考会も行われ，2年生の木内彩^{きうちあや}さんと三原香^{みはな}さんが板野郡で最優秀賞に選ばれました！板野郡で5作品しか選ばれない最優秀賞のうち，2作品が板野中学校という快^{かい}挙^{きよ}を成し遂げたのです！本当にみなさん，ご苦勞^{くろうさま}様でした！そして，おめでとう！！

この機会に，久米さんの発表原稿をみなさんに読んでいただければと思います。

同和問題学習を通してできた目標

板野中学校3年 久米知世

私はこの前，家の棚で『橋のない川』という本を見つけました。その本は，第一部から第八部まであり，母はそれを全部読んでいました。実は前に数ページだけ読んだことがあるので，部落差別に関する本だとは知っていました。最近，本に目覚^めめている私は，この本からも私の知らないことを知ることができるかもしれないと思い，読み始めたのでした。

この物語には，被差別部落に住んでいる家族が登場します。そこには二人の兄弟がい

ます。彼らは、他の村の友達にからかわれたり、食べているお粥^{かゆ}をさしていじめられるときもありました。学校の先生までもが、知らぬうちに差別をしているときもありました。宿題がいつもその村の子だけできていないと言うのです。家の仕事の手伝いのためであったり、宿題に必要なものがなかったりするのを知ろうともせずに……。

このようなひどい差別を受けても、兄弟は親に不満^{ふまん}を言うでもなく、むしろそのことをかくそうとしました。また、母たちも年貢^{ねんぐ}をとり立てられる際^{さい}に言われる悪口^{わるくち}を、必死で家族に知られないように努めました。そんな姿を見て私は、この親子のきずなの深さに驚^{おどろ}かされました。そしてこの兄弟の、優しくて強い心にも気づかされました。私なら、不満や文句を親にぶつけてしまいます。でもこの兄弟は、そんな感情をおさえているのです。小さな弟は、どうしてうちとあの家はちがうのかと考えたとき、すぐに被差別部落^{さつと}だと悟ります。しかし、なぜ差別されなければいけないのかという疑問については口にせず、のどにつかえさせたまま、我慢していたのでした。小さいながら言うてはいけないと感じたのでしょう。その質問をすれば、母が困ると思ったのでしょう。私はその母の代わりに答えたいです。あなたは何も悪くないんだよ。自分のことしか考えないばかな人間が勝手に決めつけたんだよ。そしてまた、友達に悪口を言われたとしても言い返せない、本当のことが言えないような雰囲気^{ふんいき}の時代にいた弟のことを思うと、やりきれない気持ちになりました。

でも、それなら私は、差別に反対することができるのでしょうか。その人達が理解する言葉を伝えられるのでしょうか。私は、今差別をすること、差別をしている人を見逃^{みのが}すことはおかしいと知っています。でも、本の中の時代に私がいたとして、友達や先生が当たり前^{あたりまえ}に差別をしているとしたら、自分の気持ちを伝えられない気がします……。

また私は、この本を読んでいくなかで、学習会ができた本当の意味を感じることができました。被差別部落の親の、自分の子どもには苦しい思いをさせたくない、好きなことをやらせたい、自分よりもっといい生活を送ってほしいなどの思いが、もっと勉強してほしいという願いにつながっていったということ。そして、これまで思っていた以上に差別が勉強する機会^{うけ}を奪^{うば}ってしまう力が強かったことも分かってきました。

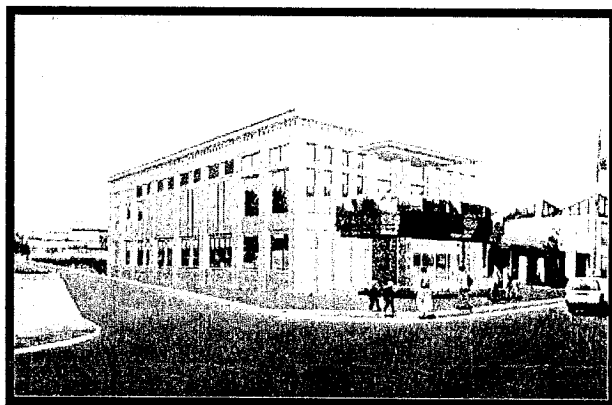
本の中で、親と子が自分の住んでいる村について話し合うように、私も母との会話が、同和問題へと発展していくことがありました。そのなかで、驚くことを母から聞いたことがありました。それは母が小学生の頃に、修学旅行に行くときのことでした。「あそこの地域の子とは友達になれんでよ。」と、周りの大人から言われたということです。母はそれを不思議に思ったと言いました。私はそれを聞いて本当にびっくりしました。今までに何度も、部落差別の具体的な話は聞いたことがありましたが、一番身近^{みじか}な存在^{そんざい}の母にもそんな経験があったとは思いませんでした。まだ部落差別も知らない子どものうちにそんなことを聞いてしまうと、その子は誤^{あやま}った考えを持ったまま、大きくなっていくかもしれません。

母が子どもの頃には、同和問題学習はありませんでした。同和問題を正しく^{にんしき}認識できるようになったのは大人になってからで、教師として部落差別に常に向き合う立場になってからだそうです。今では同和問題学習があります。だから、私の仲間が自分の子どもに間違った知識をうつけることはないと思っています。なぜなら、涙しながら思いを語る学習の中で、この問題に無関心な仲間はいないと思うからです。この学習を通して、一人一人が同和問題について少しでも考えたり、自分なりの目標をもつことができるようになったからです。

私にも、私なりの目標があります。それは、大人になっても同和問題を自分自身の問題としてとらえ、考え、解決に向けて行動し続けていくことです。人の間違いに気づいたとき、それはおかしいとはっきりと言いたいです。その人が他の人に正しいことを伝えていけるぐらいになるまで話し合いたいです。また、そのような場合でなくても母のように、子どもに正しいことを教えられるようになりたいです。それは部落差別に限らず、この世の中に存在する、さまざまな差別についてもです。そのためにこの中学校の三年間の学習が終わっても自分なりに学習を進め、たくさんの知識を身につけたいです。そしていつか、私が今母に対して思っているように、自分の子どもからお母さんがお母さんでよかったと言われるように、この人がいて本当によかったと思われるように、^{すてき}素敵な大人になっていきたいです。

原稿初めに出てくる「橋のない川」という本ですが、これは、みなさんの知っている「^{すいへいしゃそうりつ}水平社創立」に関するお話です。本を読んでいくとよく分かるし、また映画にもなり、ビデオ化もされています。(中学校にもありますよ)

また、その頃のことをよく知るには、その場に行ければもったいいわけですが、現在そこには、「^{せつりつ}水平社博物館」が設立されています。奈良県御所市柏原にある「水平社博物館」では、たくさんのパネル展示の他、コンピュータグラフィックによる紹介や、当時の雰囲気^{さいげん}を再現したジオラマなど、水平社創立当時の雰囲気^{たい}を体



この「水平社博物館」について、これからしばらくマイスカイの中で紹介していきたいと思っておりますので、よろしく！！



◆ さん か がた みんなでつくる参加型ステージ『咲かそう、おかし。』～さ自分大好き～じ ぶんだい す

以前マイスカイでも紹介したタイトルのステージが、いよいよこの日曜日にさくらホールで行われます！まだまだご存知でない方のために、再度お知らせしておきます！

このステージは、

「4つのキーワード『個性・自信・仲間・努力』を、

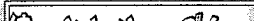
プロの『歌・ダンス・美術』を通じて参加者が体験・表現する」

ことを目的にしています。つまり、見に行ったみんなが「主役」だということです。

しかも講師で参加される堀内佳さんは、同和教育の世界では超有名で、私も数年前、中学校でミニコンサートができないか交渉しかけたことがあるくらいの方です。盲目であるがゆえに感じてきたさまざまな思いを、トーク(お話)や歌詞にのせてしゃべり、歌い、コンサートを行ってくれます。高知県出身ですが、徳島にも呼ばれてよく来てると思いますよ。ちなみに、みなさんもよく知っている「輝け虹色丸」を作った人でもあります。そんな方が板野に来るのですから、この機会にぜひ参加してみたいいかがですか？私も行くつもりです！

日 時 6月24日(日) 10:00～12:30, 14:00～16:30 2回公演
場 所 文化の館 さくらホール
講 師 盲目のシンガーソングライター 堀内 佳(「輝け虹色丸」の方です)
イラストレーター・グラフィックデザイナー 高石初美
TDCS代表・四国大学教授 田村典子
参加費 1000円



 ■夏休みまであと一ヶ月をきりました。ということは、今年ももう半分が終わりかけているということです。本当に月日が経^たつのは早いものです。すね！これから、1年生は宿泊訓練、その後も郡総体、期末テスト、保護者面談、実力テストと、たたみかけるように大切な行事が続きます。そして3年生は、受験^{てんのうざん}の天王山、夏休み^{むか}を迎えるわけです。暑さばてしないように、睡眠^{すいみん}、食事をしっかりとって、身体を冷やしすぎず、元気に生活していきましょう！

000 2004年08月 000

- 6月27日(水)・28日(木) 1年生宿泊研修(牟岐少年自然の家)
30日(金)～7月1日(日) 板野郡総合体育大会
7月3日(火)～5日(木) 1学期末テスト
5日(木)・6日(金) 四国地区同和教育研究大会(松山市)
7日(土) 第6回部落解放徳島県学習会中学生集会第4回実行委員会(14:00～16:00 ; 鳴門市解放センター)
11日(水)～16日(月) 保護者面談
12日(木)・13日(金) 実力テスト
19日(木) 終業式
20日(金)～ 夏休み